

令和6年度
こうべ動物共生センター管理運営業務
実施報告書



公益社団法人Knots
Public Interest Incorporated Association Knots

令和6年度
こうべ動物共生センター管理運営業務 実施報告書
【目次】

①	本事業の全体コンセプト	2
②	センターの管理・運営に関する業務	5
③	アニマルセラピー事業	7
	・わんちゃん読書会	
	・犬猫とのふれあい体験（高齢者向け）	
	・わんちゃんお出かけセラピー	
	・教えて！介助犬	
④	みんなで参加しよう！	12
	・ペットも一緒に避難マップを作ってみよう	
	・防災わんにゃんフェスティバル	
	・獣医師の世界を体験しよう！	
	・犬とともにだちになろう	
	・VRで体験！いぬねことのくらし	
	・体験型ワークショップ	
⑤	ペットと参加しよう！	18
	・老犬と楽しく暮らすためのセミナー	
	・お散歩診断	
	・楽しくしつけを学ぼう～ドッグダンスにチャレンジ～	
	・子犬のしつけ方相談会	
	・お困りごと相談（来所相談）	
⑥	じっくり勉強してみよう！	23
	・犬猫を飼う前に知っておきたいこと	
	・「いのちの教育」プログラム	
	・いきものといっしょ	
	・こうべ動物共生センター サマースクール、オータムスクール	
⑦	来場者促進事業	27
	・「うちの子」写真・絵画展	
	・アニマルセラピーについて学ぶ講演会	
	・こうべ動物共生センターフェスティバル	
⑧	センター広報	30

① 本事業の全体コンセプト

こうべ動物共生センターとは？

—Kobe Center for Human-Animal Interaction—



こうべ動物共生センターは、動物関係の公的機関で初めて「共生」と名付けられた、保護動物の譲渡と教育・啓発を行うことを目的とした施設です。

神戸市は、平成29年4月に日本で初めて、人と猫が共生する社会の実現を目指す「神戸市人と猫との共生に関する条例」を施行しました。これは、阪神・淡路大震災の際、神戸市で行われた歴史的な動物救援事業からの長い取り組みのひとつの成果でもありました。また、当センターがある「しあわせの村」は30年以上前からノーマライゼーションに取り組み、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備されたSDGs視点を持ったソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を目指す複合施設です。

「共生」という言葉には、「人と動物、お互いの関係を大切にし、一緒に暮らしていこう」という思いが込められています。当センターでは、その影響を科学的に解明し、人と動物の幸せな暮らしを支える関係者を繋ぎ、市民ひとりひとりに寄り添う課題解決を目指します。

愛護から共生へ...人と動物の幸せな共生を通じて、「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」を実現していきます。

1995年1月17日午前5時46分 阪神・淡路大震災

神戸市・兵庫県・神戸市獣医師会等の民間団体による歴史的な動物救援事業が行われ

「人と動物の共生」という概念の礎となった

阪神・淡路大震災動物救援事業について：神戸大学附属図書館「震災文庫」

専用ウェブサイトにおいては、阪神淡路大震災の被災動物救援事業記録集である「大震災の被災動物を救うために 兵庫県南部地震動物救援本部活動の記録」を、上記のパナーリンクより読んでいただけるようにしており、神戸市の「人と動物の共生」の根底にある事業を引き継いでいけるよう発信を行っている。

① 本事業の全体コンセプト

【「IAHAIO白書」全ての事業をIAHAIO白書に沿って実施】

動物とのふれあいを実施するにあたっては、活動に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮し、当法人がIAHAIO*の正会員であることから「IAHAIO白書」（IAHAIO White Paper）に沿って行っている。

*IAHAIO=International Association of Human-Animal Interaction Organizations

人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国のDelta Society（現PetPartners）、フランスのafirac、イギリスのSCASが中心となって1992年に設立。人と動物の相互作用の分野を進歩させるため、国際的な指導力を提供することを使命としている。

《IAHAIO白書》

IAHAIO動物介在介入の定義とAAIに係る動物の福祉のガイドライン

IAHAIO白書では、『動物介在介入 Animal Assisted Interventions (AAI) とは、動物を意図的に取り入れまたは編入された人の治療効果のための目標設定がされて構成されている健康、教育、人的サービス（例：社会福祉事業）への介入である。関係する人や動物に関する知識を持っている人が関与している。動物介在介入は、動物介在療法（AAT）や動物介在教育（AAE）、動物介在活動（AAA）等正規の人的サービスに、人と動物のチームを組み込んでいる。さらに動物介在指導（AAC）もこれに含まれる。これらの介入は学際的アプローチによって開発、実施されなければならない。』と定義されている。

AAIに参加している人と動物の福祉を守るために、人の福祉、動物の福祉についてそれぞれガイドラインが定められている。

人の福祉（抜粋）

- ・クライアントの安全対策がなければならない。専門家はAAIに関わっているクライアントのリスクを軽減しなければならない。クライアントに動物種や品種のアレルギーがないことを確認し、人によってはリスクが高いことやリスクの種類（例：免疫抑制された患者の感染、動物を通じて人から人に感染する疾患等）による除外の基準の認識を持っていなければならない。
- ・動物のハンドラーは、関係している受益者に必要なケアを理解しなければならない。AAIにおいて人に応じて起きる状況についてもトレーニングを受けている方がよい。

動物の福祉（抜粋）

- ・適切な性質をもち適切なトレーニングを受けた動物のみがAAIに選ばれるべきである。
- ・動物と活動するハンドラー及び専門家は、動物の不快感やストレスのサインを読み取ることも含め、福祉を確保するための動物のニーズについて学び、トレーニングを受けていなければならない。
- ・介入中の動物の福祉に責任がある専門家は、活動中そして終了後も、動物が健康で、適切に休め、快適で、世話を受けられることを保証しなければならない（例：水の提供、動物に安全で適切な床材）。動物に過剰な作業を要求してはならないので、活動時間は制限しなければならない（30～45分間）。
- ・適切な獣医学的なケアを提供しなければならない。AAIまたはAAAに参加する動物は、選定の過程において、また定期的にも獣医師による検査を受けなければならない。
- ・人と動物の共通感染症を防ぐため、適切な手段をとらなければならない。専門家は動物に最低年一回は獣医師免許保持者による適切なワクチンの接種、寄生虫の予防を受けさせなければならない。

② センターの管理・運営に関する業務

【令和6年度開業日数・来場者数等】

開館日数 308日（休館：火曜日、年末年始閉庁日）

来場者概況

来場者総数 18,326人

譲渡見学 734人・318組（犬：254人・119組 猫：480人・199組）

譲渡前講習会 149人・65組（犬：55人・23組 猫：94人・42組）

教育啓発事業 2,400人（付添者を含む）

その他来場者 15,043人（視察、取材、一般見学者 等）

サイト閲覧数 109,412

● センターの管理に関する業務

仕様書に記載された内容に基づき、適切に管理業務を執行した。

管理業務の内、市民からの相談・問合せへの対応状況は下記のとおり。

【相談・問合せ業務】

日常的に寄せられる、市民からの相談・問合せに対応した。

件数 427件（相談：153件 問合せ：274件）（電話：364件 来所：19件 メール：44件）

※予約が必要な来所相談を除く

相談内容

譲渡：98件 飼犬：51件 野良犬：4件 飼猫：62件 野良猫：87件 寄付：42件

事業：31件 施設：5件 ボランティア：3件 その他：44件

● センターの運営に関する業務

仕様書に記載された内容に基づき、適切に運営業務を執行した。

事業内容拡充を図るため、谷口優先生にセラピー研究フィールドアドバイザーへ就任いただいた。



谷口優先生（国立研究開発法人 国立環境研究所 主任研究員／地方
独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 協力研究員
／
東京大学客員研究員／メルボルン大学客員研究員／兵庫

② センターの管理・運営に関する業務

● 事業実施報告

事業参加総人数 2,400 人 (付添者含む)
(前年度実績 1,190 人)

仕様書に記載された内容に基づき事業を実施した。(詳細は次ページ以下)

神戸市より認知度向上と事業参加者増の課題が示され、広報等協力して取組み、事業参加者総数はおおよそ倍となった。

広報として、きたきたまつり、train safety festival (JR) 出展の協力を行なった。

きたきたまつり



会場のショッピングセンター



防災の展示コーナー



大人気の缶バッチ作り

train safety festival (JR)



【まとめ】

きたきたまつりは昨年度に引き続き2回目の出展となり、train safety festival (JR)については、初めての出展ということと、電車目的の来場者が多く犬連れの方や動物に関心のある方は少なめではあったが、缶バッチ作りや展示を通して、こうべ動物共生センターを伝える目的は果たせた。

③ アニマルセラピー事業

・わんちゃん読書会 5回実施

参加人数計 40人 (付添者を含む)

		人数			人数
①	10月14日 (月・祝)	7	③	1月19日 (土)	3
②	12月21日 (土)	5	④	2月24日 (月・祝)	9
※	11月10日 (日)	16	(こども本の森 神戸)		

<内容> 協力：公益社団法人日本動物病院協会 CAPP活動ボランティアの皆様

子どもが犬に本の読み聞かせを行うことで、子どもの読む意欲を育み、読書力の向上、国語学習を推進する。

<犬に対する研究> 島村俊介先生 (大阪公立大学)

心拍計測、唾液分析、行動観察を行いプログラム参加へのストレス検証を行った。令和4年度においては、プログラム参加を通じて犬の自律神経活動に明らかな変化は見られなかったため、ストレスを感じていないと考察されたが、より正確な検証のために研究を継続した。研究は今年度が最終年となった。

研究結果の報告については別途報告書を作成し提出する。

※11月10日(日)は「出張！わんちゃん読書会」として開催し、研究は実施していない。



犬も静かに聞いています



読書後の触れ合いの時間

【まとめ】

今年度も島村先生による犬の心拍変動解析に関する研究を継続し、イヌの心拍計測、唾液分析、行動観察を行いプログラム参加へのストレス検証を行った。今までの結果はウェブにて公開中。

また、子どもたちが犬に対して本を読み聞かせている場面では、穏やかに楽しそうに読み聞かせを行い、貴重な体験となっている。読書後にはご家族も一緒に犬と触れあう時間も持っている。

わんちゃん読書会の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/st-report/>



③ アニマルセラピー事業

島村俊介先生（大阪公立大学）による研究報告書

わんちゃん読書会（R. E. A. D. プログラム）に参加するイヌのストレス検証研究

島村 俊介（大阪公立大学小動物臨床医学）

【目的】動物介在活動（以下、AAA）は、動物が人の福祉に積極的な役割を果たす共同活動である。AAAのセッションに参加する動物の感情を理解し、ストレスを評価することは、動物の健康を維持し、AAAの成功確率を高める上で極めて重要であるものの、従事者の経験や行動解析などの主観的評価に依存しているのが現状である。心拍変動解析は、心拍の変動から自律神経活動を評価する解析手法であり、ストレスの評価指標として知られている。本研究では、AAAに参加する犬のストレスを心拍変動解析で検出可能であるかについて検討することを目的とした。

【材料と方法】

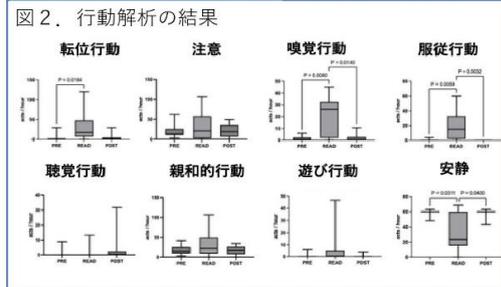
2022年10月から2025年2月に、こうべ動物共生センターで実施されたAAAであるReading Education Assistance Dogプログラム（以下、READ）に参加した犬を対象とした。犬はREAD前に飼主と個室で20分以上待機（PRE）した後、会場に移動してREADに参加し、READ後には個室で飼主と20分以上待機



(POST) した (図1)。犬は参加前に生体情報収集デバイスを装着し、PRE、READ、POSTの各期間で収集した心拍情報より自律神経活動評価を算出した。個室と会場における犬の様子を撮影した動画をもとに、53の行動パターンを1分ごとのゼロワンサンプリング法により集計し、行動解析を行った。

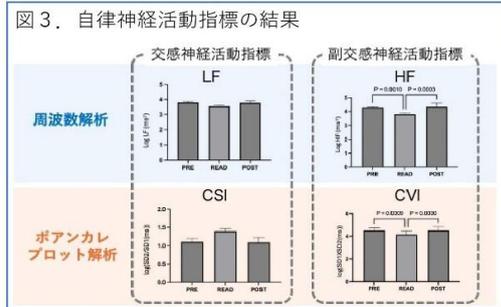
【結果】

本研究では犬は、オーストラリアンラブドゥードゥル、ポーチューギーズウォータードッグ、ミックス、トイプードルの4頭を対象とし、それぞれ4回分を解析に組み入れた。行動解析において (図2)、READ中に不安に関する行動 ($p=0.0003$) や匂いを嗅ぐ行動が有意に多くみられた ($p=0.0004$)。自律神経活動指標において (図3)、READ中に交感神経活動指標の有意な上昇 (LF: $p=0.0217$, CSI: $p=0.0114$) と副交感神経活動指標の有意な低下 (HF: $p=0.0265$, CVI: $p=0.0003$) がみられた。



【考察】

行動解析において READ中に不安に関する行動が高頻度でみられ、自律神経活動指標においても READ中に有意な自律神経活動の変化が検出された。このことは、心拍変動解析が、不安に関連すると思われる自律神経の変化を反映したものであり、本手法がAAAに参加する犬の軽度のストレスを検出可能であることが示された。



③ アニマルセラピー事業

・ 犬猫とのふれあい体験（高齢者向け） 4回実施

参加人数計 54人

		人数			人数
①	6月21日 (金)	4	③	11月22日 (金)	13
②	9月27日 (金)	10	④	3月7日 (金)	27

<内容> 協力：公益社団法人日本動物病院協会 CAPP活動ボランティアの皆様

飼いたくても飼えない高齢者を対象に犬や猫とのふれあいの場を提供し、外に出るきっかけを作り、動物とのふれあいや参加者同士の交流で会話が弾む等の活動を通して高齢者のウェルビーイングや意欲の向上を図る。

神戸市広報に掲載されてから、多くの応募があり抽選となった。参加者の笑顔や接し方等を見ていると、ふれあいの機会は共感を伴っての温かな人的交流の機会となっており、新たな事業の形への一歩となっている。



【まとめ】

・ 高齢者に大変人気のあるこのプログラムは、市の広報に載せると100名近い応募があった。

ウェブでの募集ではほとんど応募が無かったため、引き続き広報による募集が効果的と思われる。

ただ、募集20名に対して100名近い応募ということで、参加していただけない方も多く、出来るだけ多くの方に参加していただくにはどうしたら良いかということは次年度の課題として残る。

これだけ人気ということは、高齢者がいかに犬や猫と触れ合いたいと思っているかということが実感できるプログラムでもある。

犬猫とのふれあい体験（高齢者向け）の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/st-report/>



③ アニマルセラピー事業

・ わんちゃんお出かけセラピー 4回実施

参加人数計 92人

		人数	実施場所
①	9月4日 (水)	40	うみのほし六甲
②	10月17日 (木)	12	老人保健施設ひらの
③	2月9日 (日)	21	グループホーム えみのき
④	3月19日 (水)	19	神港園しあわせの家 (しあわせの村内)

<内容> 協力：公益社団法人日本動物病院協会 CAPP活動ボランティアの皆様

動物と共に高齢者施設へ赴き、施設の利用者に動物とのふれあい活動を通して交流を楽しんでいただく。参加犬の特技披露やふれあい活動を通して利用者の方に笑顔も見られ、職員の方がびっくりする程、表情豊かにふれあいをしていただいた。ご家族からは楽しく過ごしている様子を知りたいという要望も寄せられた。



参加者とボランティアとの会話も弾みます

【まとめ】

犬を見た瞬間から利用者の笑顔が見られ、自然と手が伸びてくる。ボランティアの皆さんはベテランのボランティアなので、事故なく無事に終了できた。高齢者向けふれあい事業の需要の増加が見込まれ、希望する施設も多かったため、少しでも多くの施設の希望に応えるには犬連れのボランティア育成が必要となってくる。

わんちゃんお出かけセラピーの実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/st-report/>



③ アニマルセラピー事業

・ 教えて！介助犬 4回実施

参加人数計 85人

		人数			人数
①	5月3日 (金・祝)	18	③	10月6日 (日)	44
②	6月8日 (土)	2	④	11月23日 (土・祝)	21

<内容> 協力：認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会

身体障害者補助犬法に基づく身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）に対する社会的理解を深める。

身体障害者補助犬について学び、介助犬のデモンストレーションを見学。介助犬と交流することで身体障害者補助犬の普及啓発を図る。

介助犬ユーザーの参加もあり、ユーザーと参加者との交流の機会を創出できた。



介助犬に一番大切なことは、どこでもリラックスできること

【まとめ】

身体障害者補助犬の種類、それぞれの補助犬が果たす役割なども丁寧に解説していただき、理解が深まったと感想があった。今年度も日曜日などの休日に開催することで家族連れで参加される方も多かった。

介助犬への認知度はまだまだ十分とは言えないので、少しでも多くの方に介助犬をはじめ補助犬についての啓蒙活動を実施する。

教えて！介助犬の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/join/assistant/>



④ みんなで参加しよう！

・ペットも一緒に避難マップ説明会・作成会

参加人数計 30人

		人数	実施場所	
①	7月14日 (日)	13	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社神戸支店	説明会
②	8月11日 (日)	17	ふれあい室	作成会

<内容> 協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社神戸支店

神戸市が令和5年8月に作成した「災害時のペットとの避難ガイドライン」等を活用し、住んでいる地域を回り、災害が起こりやすい場所はどこか、災害が起こったときにペットと避難所までどのようにして避難すれば良いか、避難するときに危険な場所はないか等についてまとめた「ペットとの災害避難マップ」を作る事業に取り組み、説明会、作成会を開催し、ペットも一緒に避難マップ作品展示会への出品を募り、表彰式・作品展示会を実施した。

作成会では、調査してきた内容を持ち寄り、親子で相談しながら作成を行い、随時職員が相談に応じた。

作成したマップは、一般社団法人日本損害保険協会が主催する「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」（阪神・淡路大震災をきっかけに事業開始）、神戸市が開催する「ペットとの災害避難マップ展示会」への応募を案内した。「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」で、佳作となった作品もあった。

神戸市開催の展示会へは5点の応募があり、「あいおいニッセイ同和損保賞」、「神戸市獣医師会賞」、「公益社団法人Knots賞」、「こうべ動物共生センター長賞」（2点）が贈られた。応募作品は、市民への普及啓発のため、ふれあい室にて展示している。



<https://www.city.kobe.lg.jp/a84140/kenko/health/hygiene/animal/bousai.html>

【まとめ】

2025年は阪神・淡路大震災から30年の節目の年となる。「もしも」の時に備えて大切な家族であるペットとどのように行動すればよいのか、子どもたちが楽しく学びながら防災意識を高めていく事業として継続して行い、引き続き同行避難についての啓発を図りたい。



ペットも一緒に避難マップ説明会・作成会の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/join/pet_map/



④ みんなで参加しよう！

・ 防災わんにゃんフェスティバル2025 1回実施

総参加者数：200名

実施日：2025年1月26日（日）

会場：こうべ動物共生センター

＜内容＞ 協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社神戸支店／神戸市消防局

阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、神戸市が令和5年8月に作成した「災害時のペットとの避難ガイドライン」を広く市民に周知し、ペットの飼育者が災害にどう備えていくべきか、災害が発生したらどう行動するべきか等について考えるきっかけとなるよう、以下のプログラムを実施した。

○ペットと暮らす防災セミナー～備えておこう！大切な家族だから～

○「ペットも一緒に避難マップ」の表彰式および作品展示会

○VR地震体験車「ゆれるん」乗車体験

○新しい飼い主を待つ猫とふれ合おう

○ペット防災グッズを作ってみよう

○ペット防災クイズラリー

○ペットのための災害備蓄品を知ろう

初めての実施だったが、セミナーでは愛犬同伴の方も多く満室になるなど、市民の防災意識の高さが伺われた。



【ペットと暮らす防災セミナー】



【地震体験車「ゆれるん」乗車体験】



【ペット防災クイズラリー】



【ペットのための災害備蓄品を知ろう】

【まとめ】

防災について家族と一緒に学んでもらうプログラムが提供できた。災害に備えてどのような準備をすれば良いのか、参加者が多かったことから、市民の防災に関する意識の高さがうかがえた。次年度も体験コーナーを充実させ、さらに参加者数の増加を目指したい。

防災わんにゃんフェスティバル2025の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/2025/01/bousaifes/>



④ みんなで参加しよう！

・ 獣医師の世界を体験しよう！ 12回実施

参加人数計 477人 (付添者を含む)

【監修：堀尾政博先生（獣医師／獣医学博士（公益社団法人Knots監事））】

		人数	内容	協力（講師）
①	5月11日（土）	44	水族館（低学年）	神戸須磨シーワールド 講師：毛塚千穂先生
②	5月11日（土）	41	水族館（高学年）	
③	7月6日（土）	83	動物園	神戸市立王子動物園 講師：伊豆田恭子先生
④	7月24日（水）	47	エキゾチックアニマル	北須磨動物病院 講師：佐々井浩志先生
⑤	8月18日（水）	49	獣医師になるためには	大阪公立大学 講師：笹井和美先生
⑥	9月8日（日）	22	大動物（ヤギ）	モモ動物病院 講師：池田綾香先生
⑦	9月23日（月・祝）	16	野生動物	株式会社野生動物保護管理事務所 講師：箕浦千咲先生
⑧	12月8日（日）	75	小動物（低学年）	もみの木動物病院 講師：小寺千晶先生
⑨	12月8日（日）		小動物（高学年）	
⑩	1月12日（日）	30	爬虫類・両生類	フォーゲル動物病院 講師：上田謙吾先生
⑪	2月16日（日）	26	産業動物	兵庫県農業共済組合 講師：畠中みどり先生
⑫	3月9日（日）	44	大動物（馬）	馬事公苑／大阪公立大学 講師：石川真悟先生

<内容>

幅広い獣医師の世界を学び、深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促すプログラム。様々な人と動物の共生の在り方について理解を深めるため、様々な分野で仕事に従事している獣医師に講師を依頼して実施した。

アンケートから希望の多かったエキゾチックアニマルや、爬虫類・両生類を行なうなど、内容もブラッシュアップを行ない、より興味のある内容となったことで参加者の増加にも繋がった。



【まとめ】

今年度はふれあい室だけでは人数的に入りきらないくらいの参加者もあり、しあわせの村内の施設も利用して開催した。（たんぼぼの家、しあわせの村本館会議室、野外活動センターあおぞら等）

また、藍那里山公園でのフィールドワークや、馬事公苑での馬の餌やり体験など参加者が体験できるような内容を工夫し開催した。

来年度は、内容も新たに獣医師だけではなく動物に関わる仕事についても企画する。

獣医師の世界を体験しよう！の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/kids/veterinarian/>



④ みんなで参加しよう！

・犬とともにだちになろう 4回実施

参加人数計 90人 (付添者を含む)

		人数			人数
①	5月19日 (日)	15	③	12月1日 (日)	24
②	6月23日 (日)	33	④	3月16日 (日)	18

<内容> 協力：公益社団法人日本動物病院協会 CAPP活動ボランティアの皆様

犬のボディランゲージを知り、犬の気持ちを想像することで寄り添う気持ちの大切さを考え、犬との交流を通して、正しい接し方を身に付ける。心音を聞く体験からは、それぞれの心音の違いに気づき、違っていても「同じいのち」であることを学び、他者への共感・思いやりの心を育成する。今年度は毎回子どもからの希望が多かった犬の散歩も取り入れ、短い距離でも一緒に歩くことで一層犬との距離も近付いた。子どもたちには、このような体験を重ねるために必要となる「安全に犬と接する方法」も伝えることが出来た。



【まとめ】

小学生だけではなく幼稚園児など未就学児の参加もあった。

今年度は毎回子どもからの希望が多かった犬の散歩も取り入れ、短い距離でも一緒に歩くことで一層犬との距離も近付き、子どもたちも満足していた様子。

犬とともにだちになろうの実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/kids/dogfriend/>



④ みんなで参加しよう！

・ VR で体験！いぬねことのくらし 定員12名 Knots職員が実施

参加人数計 16人 (付添者を含む)

		人数	
①	8月7日 (水)	5	10:30～11:30
②	8月17日 (土)	11	14:00～15:00

<内容> VR機材貸出協力：ネスレ日本株式会社ネスレピュリナペットケア

生身の動物に触れる前に疑似体験を経験できるツール（動物アレルギーをもつ子どもも参加可能）の活用を通して、動物の習性や行動について理解を深める。犬猫との正しい接し方や適切な飼育について学び、動物の気持ちを想像し、実際に動物に接するときにはどんなことに気をつけたらいいのか子どもたちが自ら考える。補助教材として、環境省発行の冊子「どうぶつといっしょにくらそう」を活用して実施した。まるで目の前にいるかのようなリアルな映像は、子どもたちに大きなインパクトがあり、犬猫との触れ合い方や正しい飼い方などを楽しく学ぶことができた。



【まとめ】

アレルギーなどで実際に犬や猫と触れあう事が出来ない子どもも参加することができた。

まるで目の前にいるかのようなリアルな映像に、子どもたちは驚きつつ犬猫との触れ合い方や正しい飼い方などを学ぶことができた。

VR で体験！いぬねことのくらしの実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/kids/vr/>



④ みんなで参加しよう！

・体験型ワークショップ 5回開催

参加人数計 78人

		人数	内容	
①	7月21日 (日)	20	張り子作り教室	講師：Knots職員
②	8月2日 (金)	11	アニマルレジンのストラップを作ろう	協力：しあわせの村温泉健康センター
③	8月5日 (月)	20	張り子作り教室	講師：Knots職員
④⑤	8月9日 (金)	27	パステルアート 2回開催	講師：中馬由美子先生

<内容>

体験型のワークショップとして、「パステル和アート」「レジン工作体験」「張り子作り教室」を開催。

今年度、初めて企画開催したプログラムだったが、子どもだけではなく大人も一緒に参加できる内容でもあり、親子で楽しむことができた。



【まとめ】

今年度、初めて企画開催したプログラムだったが、子どもだけではなく大人も一緒に参加できる内容でもあり、親子で楽しむことができた。

「レジン工作体験」については、しあわせの村内の健康・温泉センター様に協力を依頼し、快くお引き受けいただいた。

来年度も引き続き内容検討し、体験型ワークショップを開催することで集客に繋げたい。

体験型ワークショップの実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/join/workshop/>



⑤ ペットと参加しよう！

・老犬と楽しく暮らすためのセミナー 2回実施

参加人数計 21人 (付添者を含む)

		人数
①	5月26日 (日)	9
②	11月3日 (日)	12

<内容> 講師：中塚圭子先生

犬の寿命が以前に比べて長くなってきていることに伴い、老犬との適切な飼養（環境整備、食事、散歩、排泄等）について座学と実践を通して学ぶ。実践では、老犬介護グッズの体験や、バスボムを使用した清拭を犬に施した。随時参加者からの相談、質問に応じ、老犬との暮らしの中での困りごと解消に努め、QOLを維持し、残された愛犬との時間をより充実し明るい気持ちで過ごせるように支援を行った。今すでに老犬の介護をしている飼い主や、これからの介護に備えるためにという飼い主から、とても参考になったと喜ばれている。また、同じように犬の介護をしている飼い主同士、お互いの状況を知ることによって介護の励みにもなった様子が見てとれた。



【まとめ】

老犬になり介護が必要になってきた犬に対しての寄り添い方、使える便利な介護グッズや、食が細くなってきた際の手作りご飯のレシピなど、今すでに老犬の介護をしている飼い主や、これからの介護に備えるためにという飼い主などから、とても参考になったと喜ばれている。

老犬と楽しく暮らすためのセミナーの実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/learning/senior/>



⑤ ペットと参加しよう！

・ お散歩診断 4回実施

参加人数計 31人 (付添者を含む)

		人数			人数
①	5月9日 (木)	9	③	10月10日 (木)	6
②	7月27日 (土)	3	④	11月14日 (木)	13

<内容> 講師：渡辺ひろこ先生

日常の散歩での困りごと（吠える、引っ張る、動かない等）を抱えている飼い主を対象に、しあわせの村内の散策を通して、専門家からのアドバイスにより困りごとの解消を図る。ゲーム等を行いながら基本的なしつけを学び、飼い主と犬との円滑なコミュニケーションへのアドバイスも行う。「座学」での受講の様子から、犬からのボディランゲージをより細かく知ること、犬の問題行動を減らすことに繋がり、飼い主と犬との信頼関係を構築することで、より犬との生活が楽しいものとなると感じることができた。参加された飼い主も今までわからなかった犬の気持ちを知ることが出来たと喜ばれていた。



【まとめ】

参加者の声より、「歩ける子なので、信じて歩くのを待つ大切さを教えてもらえた」「迎えてから10年悩んでいたことがこのプログラムで解消できて本当に助かった」など喜びの声が多く聞かれる。

お散歩途中の休憩時には全員でゲームをするなど、飼い主と犬が楽しみながらしつけを学べた。

「座学」では、犬からのボディランゲージをより細かく知ること、犬の問題行動を減らすことに繋がり、飼い主と犬との信頼関係を構築することで、より犬との生活が楽しいものとなると感じることができた。参加された飼い主の皆さんも、今までわからなかった犬の気持ちを知ることが出来たと喜ばれていた。

お散歩診断の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/join/walk/>



⑤ ペットと参加しよう！

・ 楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！～ 4回実施

参加人数計 29人 (付添者を含む)

		人数			人数
①	5月17日 (金)	5	③	10月18日 (金)	10
②	6月21日 (金)	4	④	3月21日 (金)	10

<内容> 講師：高山美佐先生

愛犬と共に楽しい時間を共有したい飼い主等を対象に、基本的なしつけを学びながら、「オスワリ」「フセ」「マテ」のほか、「オテ」「マワレ」等の技(芸)を組み合わせ、音楽に合わせて体を動かし、ドッグスポーツの一種であるドッグダンスに挑戦した。

短い時間ではあるが犬との楽しい時間の共有と達成感を飼い主は味わうことができ、ウェルビーイングを意識して他のプログラムにも活かせる要素がある。



【まとめ】

参加者の声より、「できるか不安だったが、楽しく取り組めた」「意外とできてびっくりした」「飼い主が年をとってきているので、90分がとても良い脳の刺激になって感謝」などの声が聞かれた。基本の動きを教えていただきながら、短い音楽に合わせて一緒にダンスを行い、最初は犬への指示と同時に音楽に合わせてるのは難しいと思うが、終わる頃には音楽に合わせてダンスを行うことが出来るようになり、楽しい時間の共有と達成感を味わった。

楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！～の実施レポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/join/dogdance/>



⑤ ペットと参加しよう！

・ 子犬のしつけ方相談会 2回実施

参加人数計 16人 (付添者を含む)

		人数
①	5月4日 (土・祝)	7
②	10月13日 (日)	9

<内容> 講師：村田香織先生

生後4ヶ月齢までの子犬とその飼い主を対象とし、子犬の社会化期に必要な知識としつけ方について学び、困りごとの解消を図る。困りごとの相談だけでなく、社会化クッキー（初めて出会う人等との挨拶の際に犬に与えるおやつ）の使い方、甘噛み対策、人と犬との遊びのルール、トイレトレーニング、プレイセッション等、講義と実践の両面から学ぶ。

後日、参加者からは、しつけが楽になったとの報告があった。



【まとめ】

昨年より開催日数を1回増やしている。犬を飼うのが初めてという方にもわかりやすく、犬との接し方や社会化期の重要性なども良くわかったと参加者からも好評だった。

子犬のしつけ方相談会のレポートは下記リンクからお読み下さい

https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/learning/puppy_soudan/



⑤ ペットと参加しよう！

・お困りごと相談（来所相談） 月2回実施

相談件数 20件 参加人数計 36人

	相談件数	人数		相談件数	人数		相談件数	人数
4月実施	1	3	8月実施	1	2	12月実施	2	4
5月実施	0		9月実施	2	5	1月実施	1	2
6月実施	5	8	10月実施	3	5	2月実施	3	4
7月実施	0		11月実施	0		3月実施	2	3

<内容> 協力：本橋孝志先生／笠木恵子先生

事前予約制とし、しつけや問題行動に関する相談を受け付けアドバイスを行う。愛玩動物飼養管理士である専任職員が対応し、相談内容に応じて訓練士、家庭犬しつけインストラクター、獣医師が対応する。

月に2回の実施日に来所できない市民に対しては、別日程で受け付ける等、可能な限りの対応を行った。電話やメールでは詳しい状況を把握できない場合もあり、犬を連れて来てもらうことで、飼い主が日頃どのように犬とコミュニケーションをとっているか、実際の様子を見ながらより具体的なアドバイスを行った。

相談を受ける際、投薬の可能性等医療的な部分からのアプローチが必要になるかもしれないと思われる場合には、獣医師に相談を受けてもらう等臨機応変に対応した。また、一度ですぐに改善されるのが難しいと思われるような場合には、継続して通うことができるしつけ教室等への参加検討を案内するほか、フォローアップの電話を行った。



【まとめ】

実際に犬も一緒に連れて来てもらうことで、飼い主と犬との関係性を見ながらより具体的なアドバイスを行うことができています。終了後はフォローアップの連絡をし、すぐに改善が難しいような場合には継続して通うことができるしつけ教室等への参加検討を案内するなども行った。

後日、フォローアップの電話連絡を行い、概ねその後は良好な様子だった。

お困りごと相談（来所相談）のレポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/support/>



⑥ じっくり勉強してみよう！

・犬猫を飼う前に知っておきたいこと 5回実施

参加人数計 26人

		人数	内容	
①	8月24日 (土)	4	犬を飼う前に知っておきたいこと	神戸市教育会館 205号室
②	8月24日 (土)	4	猫を飼う前に知っておきたいこと	神戸市教育会館 205号室
③	11月23日 (土・祝)	7	猫についてもっと知ろう	ふれあい室
④	1月18日 (土)	10	犬を飼う前に知っておきたいこと	ふれあい室
⑤	1月18日 (土)	1	猫を飼う前に知っておきたいこと	ふれあい室

<内容> 講師：近藤悦子先生

市民が犬や猫を飼う前に、その特性、終生飼養をするための心構えや基礎知識を学ぶ機会を提供することを目的とし、犬種や猫種の特性、犬や猫の社会化の重要性、病気予防や飼育に要する知識・情報等について獣医師が解説。猫に関しては、これまで啓発の機会が少なかったため、すでに猫を飼育している飼い主の方も参加可能な講座を実施した。

犬や猫を迎える場合に、こうべ動物共生センターの譲渡犬・譲渡猫を選択肢のひとつとして考えてもらえるよう、神戸市のわんにゃん譲渡制度への理解促進も図ると同時にこれから飼育したい人の終生飼育につながるようテキスト、講義内容を検討した。



【まとめ】

今年度、初めてのプログラムの一つとして犬や猫を初めて迎える方を対象として開催。猫については、別に飼う前に限らず、猫について知るという内容で開催。いずれも参加者が少なく、次年度以降、プログラム告知の方法が課題の一つ。

犬や猫を迎える場合に、こうべ動物共生センターの譲渡犬・譲渡猫を選択肢のひとつとして考えてもらえるよう、引き続き神戸市のわんにゃん譲渡制度への理解促進も図ると同時にこれから飼育したい人の終生飼育につながるようブラッシュアップしていく。

犬猫を飼う前に知っておきたいことのレポートは下記リンクからお読み下さい

https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/learning/before_pet/



⑥ じっくり勉強してみよう！

・「いのちの教育」プログラム Knots職員が実施

参加人数計 315人

神戸市立広陵小学校 2年生3クラス 小学校多目的室にてクラスごとに実施

		人数			人数			人数
①	12月18日 (木)	77	②	1月8日 (木)	83	③	1月16日 (月)	82

神戸市立真陽小学校 3年生1クラス 小学校多目的室にて実施

		人数			人数			人数
①	6月24日 (水)	25	②	9月9日 (木)	25	③	1月27日 (木)	23

<内容>

奈良県「いのちの教育」プログラムは、すでに多くの自治体での導入実績があり、張り子の動物たちを使い、子どもたちが学習に参加し、自ら考えながら「いのち」を実感できるプログラムである。

それぞれ1時限の、3つのプログラムで構成されている。

- ・プログラムⅠ「私たちと動物との関わり」(気づき)：【人間と動物はつながっている】
- ・プログラムⅡ「動物と私たちの『いのち』は同じ」(共感)：【動物にもこころがある】
- ・プログラムⅢ「動物のために私たちができること」(責任)：【わたしたちと動物とのやくそく】

「他者へ共感する感性と自他の生命を尊重する態度の育成」、「思いやりや協調性、道徳的心情などの豊かな人間性の基盤の構築」、「社会的規範意識の醸成及び向上」などの学びが期待され、自ら考えることにより、「あらゆる『いのち』に共感し、『いのち』を大切にできる心」を育む。

現代社会の課題を自分の課題として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こすことができる「持続可能な社会の創り手」の育成に貢献する。

令和5年度より継続して真陽小学校より依頼があったほか、新たに広陵小学校からも依頼があり対応した。



プログラムⅠ



プログラムⅡ



プログラムⅢ

【まとめ】

「いのちの教育」プログラムは、動物を通して「他者へ共感する感性と自他の生命を尊重する態度の育成」「思いやりや協調、道徳的心情などの豊かな人間性の基盤の構築」「社会的規範意識の醸成及び向上」という効果が期待される教育プログラムである。神戸市内の小学校に広めていくためにも、プログラムによる効果を、多くの教育現場、児童、保護者に知ってもらえるよう努めていきたい。

「いのちの教育」プログラムのレポートは下記リンクからお読み下さい
<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/kids/life/>



⑥ じっくり勉強してみよう！

・ いきものといっしょ Knots職員が実施

参加人数計 29人 (付添者を含む)

		人数			人数			人数
①	5月18日 (土)	4	④	8月10日 (土)	4	⑦	11月11日 (月)	3
②	6月3日 (月)	2	⑤	9月30日 (土)	2			
③	6月22日 (土)	7	⑥	10月5日 (土)	7			

<内容>

神戸市副読本「いきものといっしょ～みぢかなどうぶつに目をむけてみよう～」を活用し、神戸で出会う身近な動物を見つけながら、動物の気持ちやそれぞれの動物の暮らす環境を知ること、人と動物との共生について考える。動物たちの気持ちや正しい接し方について自分で考え、他者との関係性について認識し、他者に対する共感・思いやりの心を育てることにつながるプログラムであり、子どもだけでなく保護者と共に参加して学ぶことにより、家族で人と動物の共生について考える場を創出することにも貢献できた。



【まとめ】

動物たちの気持ちや正しい接し方について自分で考え、他者との関係性について認識し、他者に対する共感・思いやりの心を育てることにつながるプログラムであり、子どもだけでなく保護者と共に参加して学ぶことにより、家族で人と動物の共生について考える場を創出することにも貢献できた。

いきものといっしょのレポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/kids/issy/>



⑥ じっくり勉強してみよう！

・ こうべ動物共生センターサマースクール・オータムスクール 3回実施

参加人数計 64人

		人数
①	8月2日 (金)	22
②	8月9日 (金)	23
③	11月16日 (土)	19

<内容> VR機材貸出協力：ネスレ日本株式会社ネスレピュリナペットケア

小学生を対象とし、犬や猫とのふれあい方や犬や猫の気持ち等を学び、人と動物の共生について理解を深めることを目的に、神戸市に保護される犬猫の現状を知るプログラムや、VRを活用した犬猫との暮らしの体験、保護犬猫のお世話体験等のプログラムを実施、神戸市に保護される犬猫の現状を知ることによって「いのち」に対する責任についても学ぶ機会を提供できた。

低学年と高学年を分けて実施したが、抽選に外れた希望者からの要望も多く、秋にも同プログラムで実施した。



【まとめ】

低学年と高学年を分けて実施。抽選に外れた希望者からの要望も多く、秋にも同プログラムで実施した。VR体験で学んだことを保護犬・猫のお世話体験に活かすことができた。神戸市に保護される犬猫の現状を知ることによって「いのち」に対する責任についても学ぶ機会を提供できた。

学年が違くと兄弟姉妹で参加できないという声も保護者から寄せられたため、一度に多人数が参加できるようなプログラム企画等の課題解決に向け、次年度の企画を進めていく。

こうべ動物共生センターサマースクール・オータムスクールのレポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/category/post/ev-report/kids/summerschool/>



⑦ 来場者促進事業

・「うちの子」写真・絵画展 4回実施

応募者来場数	300人	展示場所：ふれあい室
募集期間・展示期間		応募点数
【第1期】4月募集	展示期間：5月～7月	36
【第2期】7月募集	展示期間：8月～10月	35
【第3期】10月募集	展示期間：11月～1月	51
【第4期】1月募集	展示期間：2月～4月	41

<内容>

共生センターふれあい室にて、公募した作品の展示を行うことで、共生センターの知名度アップと来場者の増加を図り、共生センターの事業についても知ってもらう機会とした。記念品として、応募来場者に作品から缶バッジを作成し好評を得た。一般の来場者にも、ふれあい室開放時に動物たちの写真・絵画を見学入室いただいている。



【まとめ】

応募された方には、家族、友人と一緒に来場いただいている。

展示期間終了後には、外でのイベントや本館でも展示をし、こうべ動物共生センターの広報にも貢献している。

⑦ 来場者促進事業

・ アニマルセラピーについて学ぶ講演会 1回実施

実施日：令和6年6月30日（日） 参加人数：71名

会場：神戸市中央区文化センター 11階 1103&1104号室

演題：「動物との関わりが子ども達にもたらす影響 —ニューヨーク・グリーンチムニーズの事例から—」

講師：木下美也子先生（こうべ動物共生センター セラピー研究フィールドアドバイザー／グリーン・チムニーズ&ファームサム&マイラ・ロス研究所※教育プログラム部長／神戸市出身）

<内容>

市民に「こうべ動物共生センター」におけるアニマルセラピーを知ってもらうため、今年度は、神戸出身の木下美也子先生よりアメリカNY州にあるグリーンチムニーズでの活動について講演いただいた。

虐待やネグレクト等、家庭の問題や学校教育になじめず問題行動を繰り返してきた子どもたちが通って学んでいるグリーンチムニーズの広大な自然環境の中で、動物の世話や園芸・農場プログラム等を通して、それぞれの抱える問題を解決し、再び地域社会へ復帰をするための取り組みにおいて、心理的、行動的、社会的に強く健全な青少年を育て、子どもたちが自分に自信を持てるようになっていく等の話を聞かせていただいた。

教育機関や医療機関、児童福祉施設等の関係者だけでなく、アニマルセラピーに関心の高い学生の参加もあり、講演後には様々な質問が出た。講演の様子は、ウェブサイトで公開している。



【まとめ】

遠方からの参加もあり、参加者の関心の高さがうかがえた。次年度も人と動物の相互作用をテーマに講演会を企画する。

アニマルセラピーについて学ぶ講演会のレポートは下記リンクからお読み下さい

https://kobe-chai.jp/2024/06/chai_lecture/



講演会の動画を公開しています

https://kobe-chai.jp/2024/08/chai_lecture-2/



⑦ 来場者促進事業

・ こうべ動物共生センターフェスティバル2025 1回実施

総参加者数：300名

実施日：2024年9月28日（土）

会場：こうべ動物共生センター

<内容> 写真教室講師：西村多賀子先生 協力：しあわせの村温泉健康センター

共生センターオープンから3年が経過し、さらに多くの市民に、共生センターの目的と事業内容と知っていただくために、フェスティバルを開催。「バックヤード見学&ふれあいツアー」「りぶ・らぶエクササイズ」・「スマホでペット写真教室」「ペットとの同行避難・防災展示コーナー」「こども縁日」「ドッグカフェ」「わんちゃん用おやつ販売」を実施した。バックヤード見学で猫をみられた方が後日譲渡希望されるなど、フェスティバル後にもセンターを訪れる方が増えた。



【まとめ】

初めての開催となったが、当日は天気にも恵まれ大勢の方に参加いただいた。

また、しあわせの村内の健康・温泉センター様にも縁日出店でご協力いただき、賑わいも見せた。市民の皆さんに共生センターを知っていただく良い催しとなった。

こうべ動物共生センターフェスティバル2025のレポートは下記リンクからお読み下さい

<https://kobe-chai.jp/2024/09/festival2024/>



⑧ センター広報

こうべ動物共生センターの広報として以下の通り行った

- ・ウェブサイトの運営
- ・しあわせの村内へのポスター掲示、しあわせの村ウェブサイト・インスタへの情報提供
- ・マスコミへの事業情報提供

※管理運営事業者の公益事業（内閣府認定）においても、以下の通り、こうべ動物共生センターの事業の紹介及び広報支援を行なった。

- ・人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム 2024 (10月27日)
シンポジウム「ペットとの暮らしを活用する豊かな社会 -それを可能にする環境整備-」を開催し、こうべ動物共生センターの存在意義を参加者に認識していただいた。
- ・IAHAIO FREE WEBINAR（オンライン）（11月14日）
代表理事による講演「人と動物の相互作用の魅力～日本ならではのウェルビーイングをめざして～」の中で、神戸市の共生社会実現の取り組みとして、こうべ動物共生センターの活動を紹介した。
こうべ動物共生センターでの事業は、IAHAIO白書に沿って行っている。
- ・奈良県人権教育啓発講座「子どもの自己肯定感を育てる社会の実現に向けて」（12月6日～1月6日）
代表理事による講演「-動物-人ではないその温かな存在が、子ども達に『育つ機会』をつくれる」を行い、いのちの教育の実施など、こうべ動物共生センターでの取り組みを紹介した。
- ・メールマガジン（毎月1回発行）／ウェブサイト
当法人のメールマガジンとウェブサイトにおいて、「こうべ動物共生センター」コーナーを設け、事業予定、活動内容を掲載している。